

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 6 月 15 日 (2017.6.15)

【公表番号】特表 2016-521286 (P2016-521286A)

【公表日】平成 28 年 7 月 21 日 (2016.7.21)

【年通号数】公開・登録公報 2016-043

【出願番号】特願 2016-513125 (P2016-513125)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 K 31/20 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

A 2 3 L 33/185 (2016.01)

A 2 3 L 33/19 (2016.01)

A 2 3 L 33/105 (2016.01)

C 1 2 Q 1/04 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

A 2 3 L 33/12 (2016.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

G 0 1 N 33/68 (2006.01)

A 6 1 K 36/889 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 K 31/20

C 1 2 Q 1/68 A

A 2 3 L 33/185

A 2 3 L 33/19

A 2 3 L 33/105

C 1 2 Q 1/04

C 1 2 Q 1/02

A 2 3 L 33/12

G 0 1 N 33/50 P

G 0 1 N 33/68

A 6 1 K 36/889

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 5 月 8 日 (2017.5.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

R a s 関連腫瘍による脂質捕捉を阻害することによって、R a s 関連がんを処置するための栄養サプリメントであって、目的の細胞または腫瘍にとって好適な捕捉脂質ではない

脂質を含有する、栄養サプリメント。

【請求項 2】

環境からの好適な捕捉脂質が制限されることをさらに特徴とする、請求項 1 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 3】

前記好適な捕捉脂質が、多価不飽和脂質であるか、またはそれを含む、請求項 2 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 4】

前記好適な捕捉脂質が、リン脂質であるか、またはそれを含む、請求項 2 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 5】

前記好適な捕捉脂質が、リゾリン脂質であるか、またはそれを含む、請求項 3 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 6】

前記好適な捕捉脂質が、ホスファチジルグリセロール脂質であるか、またはそれを含む、請求項 2 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 7】

前記好適な捕捉脂質が、より高い不飽和度の脂肪酸であるか、またはそれを含む、請求項 2 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 8】

前記好適な捕捉脂質が、より長い炭素鎖であるか、またはそれを含む、請求項 2 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 9】

腫瘍関連性 Ras 変異体タンパク質、該変異体をコードする核酸および / または相補的な核酸を、脂質生合成阻害剤を用いる治療に対する応答性を見込みに基づき腫瘍を分類する指標として使用する方法であって、該腫瘍関連性 Ras 変異体タンパク質、該変異体をコードする該核酸および / または該相補的な核酸の存在またはレベルを検出することを含む、方法。

【請求項 10】

薬剤の効果を、がんの処置に有用な薬剤を同定し、かつ / または特徴付ける指標として使用する方法であって、脂質捕捉に対する該薬剤の効果を、適切な対照と比較して決定することを含む、方法。

【請求項 11】

脂質捕捉を阻害することが、食事による脂質摂取により制御されることを特徴とする、請求項 1 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 12】

過剰の完全飽和した脂肪酸が消費されるように、食事による脂質摂取が制御される、請求項 11 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 13】

多価不飽和脂肪酸に対する飽和脂肪酸の比が、2、3、4、5、8、10、15、20、25、30、35、40、45、または50を超えるように、食事による脂質摂取が制御される、請求項 11 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 14】

0.3 重量 % 未満の必須脂肪酸を含む脂肪酸を含む、栄養サプリメント。

【請求項 15】

0.1 重量 % 未満の濃度のアラキドン酸を含む、請求項 14 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 16】

前記栄養サプリメントの少なくとも 70 重量 % が脂質である、請求項 14 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 17】

前記脂質が、動物源および／または植物源に由来する、請求項 14 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 18】

前記脂質が、ココナツに由来する、請求項 17 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 19】

前記脂質が、陸生動物源または酪農源に由来する、請求項 17 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 20】

タンパク質源をさらに含む、請求項 14 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 21】

炭水化物源をさらに含む、請求項 14 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 22】

丸剤またはカプセル剤の形態である、請求項 14 に記載の栄養サプリメント。

【請求項 23】

がんを処置するための治療食であって、過剰の飽和脂肪酸を含む治療食。

【請求項 24】

前記過剰が、多価不飽和脂肪酸に対して 1 を超える飽和脂肪酸の比からなるか、またはその比を含む、請求項 23 に記載の治療食。

【請求項 25】

多価不飽和脂肪酸に対する飽和脂肪酸の前記比が、2、3、4、5、8、10、15、20、25、30、35、40、45、または50を超える、請求項 23 に記載の治療食。

【請求項 26】

前記がんが、R a s 関連がんである、請求項 23 に記載の治療食。

【請求項 27】

前記 R a s 駆動がんが、膵臓がん、非小細胞肺癌、結腸直腸がん、膀胱がん、腎臓がん、甲状腺がん、黒色腫、肝細胞癌、および血液系悪性腫瘍からなる群から選択される、請求項 26 に記載の治療食。

【請求項 28】

前記治療食が、少なくとも2週間にわたって投与される、請求項 23 に記載の治療食。

【請求項 29】

前記治療食が、3週間、4週間、5週間、6週間、7週間、8週間、9週間、10週間、11週間、12週間、13週間、14週間、15週間、16週間、17週間、18週間、19週間、20週間、21週間、22週間、23週間、24週間、25週間、26週間の期間にわたって、または治療エンドポイントが観察されるまで投与されることを特徴とする、請求項 28 に記載の治療食。

【請求項 30】

前記飽和脂肪酸が、動物源および／または植物源に由来する、請求項 23 に記載の治療食。

【請求項 31】

前記飽和脂肪酸が、ココナツに由来する、請求項 30 に記載の治療食。

【請求項 32】

前記飽和脂肪酸が、陸生動物源または酪農源に由来する、請求項 30 に記載の治療食。

【請求項 33】

化学療法剤をさらに含む、請求項 23 に記載の治療食。

【請求項 34】

がんを処置するための組み合わせ物であって、

該組み合わせ物は、がん細胞成長の1種または複数の薬理的阻害剤と、多価不飽和脂肪酸に対して1を超える比の飽和脂肪酸を含む治療食とを含み、

該がん細胞成長の１種または複数の薬理学的阻害剤は、がんの処置を必要としている患者に投与されることを特徴とし、該患者は、該治療食を消費するように指示されることを特徴とする、
組み合わせ物。

【請求項３５】

化学療法と共に投与されることを特徴とする、請求項１に記載の栄養サプリメント。

【請求項３６】

がんを処置するための組み合わせ物であって、

該組み合わせ物は、がん細胞成長の１種または複数の薬理学的阻害剤と、請求項１４に記載の栄養サプリメントを含む治療食とを含み、

該がん細胞成長の１種または複数の薬理学的阻害剤は、がんの処置を必要としている患者に投与されることを特徴とし、該患者は、請求項１４に記載の栄養サプリメントを含む治療食を消費するように指示されることを特徴とする、
組み合わせ物。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３３】

本開示の他の特色および利点は、以下の詳細な記載から明らかになる。しかしこの詳細な記載から、当業者には、本開示の精神および範囲内の様々な変更および改変が明らかになるはずなので、詳細な記載および具体例は、本開示の好ましい実施形態を示しているものの、単に例示的なものであることを理解されたい。

本発明の実施形態において、例えば以下の項目が提供される。

(項目１)

R a s 関連腫瘍による脂質捕捉を阻害することによって、R a s 関連がんを処置する方法。

(項目２)

環境からの好適な捕捉脂質を制限することを含む、項目１に記載の方法。

(項目３)

前記好適な捕捉脂質が、多価不飽和脂質であるか、またはそれを含む、項目２に記載の方法。

(項目４)

前記好適な捕捉脂質が、リン脂質であるか、またはそれを含む、項目２に記載の方法。

(項目５)

前記好適な捕捉脂質が、リゾリン脂質であるか、またはそれを含む、項目３に記載の方法。

(項目６)

前記好適な捕捉脂質が、ホスファチジルグリセロール脂質であるか、またはそれを含む、項目２に記載の方法。

(項目７)

前記好適な捕捉脂質が、より高い不飽和度の脂肪酸であるか、またはそれを含む、項目２に記載の方法。

(項目８)

前記好適な捕捉脂質が、より長い炭素鎖であるか、またはそれを含む、項目２に記載の方法。

(項目９)

腫瘍関連性 R a s 変異体タンパク質、該変異体をコードする核酸および／または相補的

な核酸の存在またはレベルを検出することによって、脂質生合成阻害剤を用いる治療に対する応答性を見込みに基づき腫瘍を分類する方法。

(項目 10)

脂質捕捉に対する薬剤の効果を、適切な対照と比較して決定することによって、がんの処置に有用な薬剤を同定し、かつ / または特徴付ける方法。

(項目 11)

脂質捕捉を阻害するステップが、食事による脂質摂取を制御することを含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 12)

過剰の完全飽和した脂肪酸が消費されるように、食事による脂質摂取が制御される、項目 11 に記載の方法。

(項目 13)

多価不飽和脂肪酸に対する飽和脂肪酸の比が、2、3、4、5、8、10、15、20、25、30、35、40、45、または50を超えるように、食事による脂質摂取が制御される、項目 11 に記載の方法。

(項目 14)

多価不飽和脂肪酸に対する飽和脂肪酸の比が、2、3、4、5、8、10、15、20、25、30、35、40、45、または50を超えるように、食事による脂質摂取が制御される、項目 11 に記載の方法。

(項目 15)

0.3 重量 % 未満の必須脂肪酸を含む脂肪酸を含む、栄養サプリメント。

(項目 16)

0.1 重量 % 未満の濃度のアラキドン酸を含む、項目 15 に記載の栄養サプリメント。

(項目 17)

前記栄養サプリメントの少なくとも70重量%が脂質である、項目 15 に記載の栄養サプリメント。

(項目 18)

前記脂質が、動物源および / または植物源に由来する、項目 15 に記載の栄養サプリメント。

(項目 19)

前記脂質が、ココナツに由来する、項目 18 に記載の栄養サプリメント。

(項目 20)

前記脂質が、陸生動物源または酪農源に由来する、項目 18 に記載の栄養サプリメント。

(項目 21)

タンパク質源をさらに含む、項目 15 に記載の栄養サプリメント。

(項目 22)

炭水化物源をさらに含む、項目 15 に記載の栄養サプリメント。

(項目 23)

丸剤またはカプセル剤の形態である、項目 15 に記載の栄養サプリメント。

(項目 24)

がんを処置する方法であって、過剰の飽和脂肪酸を含む治療食を、がんの処置を必要としている患者に投与することを含む方法。

(項目 25)

前記過剰が、多価不飽和脂肪酸に対して1を超える飽和脂肪酸の比からなるか、またはその比を含む、項目 24 に記載の方法。

(項目 26)

多価不飽和脂肪酸に対する飽和脂肪酸の前記比が、2、3、4、5、8、10、15、20、25、30、35、40、45、または50を超える、項目 24 に記載の方法。

(項目 27)

前記がんが、R a s 関連がんである、項目 2 4 に記載の方法。

(項目 2 8)

前記 R a s 駆動がんが、膵臓がん、非小細胞肺癌、結腸直腸がん、膀胱がん、腎臓がん、甲状腺がん、黒色腫、肝細胞癌、および血液系悪性腫瘍からなる群から選択される、項目 2 7 に記載の方法。

(項目 2 9)

前記治療食が、少なくとも 2 週間にわたって投与される、項目 2 4 に記載の方法。

(項目 3 0)

前記治療食が、3 週間、4 週間、5 週間、6 週間、7 週間、8 週間、9 週間、1 0 週間、1 1 週間、1 2 週間、1 3 週間、1 4 週間、1 5 週間、1 6 週間、1 7 週間、1 8 週間、1 9 週間、2 0 週間、2 1 週間、2 2 週間、2 3 週間、2 4 週間、2 5 週間、2 6 週間の期間にわたって、または治療エンドポイントが観察されるまで投与される、項目 2 9 に記載の方法。

(項目 3 1)

前記飽和脂肪酸が、動物源および / または植物源に由来する、項目 2 4 に記載の方法。

(項目 3 2)

前記飽和脂肪酸が、ココナツに由来する、項目 3 1 に記載の方法。

(項目 3 3)

前記飽和脂肪酸が、陸生動物源または酪農源に由来する、項目 3 1 に記載の方法。

(項目 3 4)

化学療法剤を投与することをさらに含む、項目 2 4 に記載の方法。

(項目 3 5)

がんを処置する方法であって、がん細胞成長の 1 種または複数の薬理的阻害剤を、がんの処置を必要としている患者に投与することと、該患者に、多価不飽和脂肪酸に対して 1 を超える比の飽和脂肪酸を含む治療食を消費するように指示することとを含む、方法。

(項目 3 6)

化学療法を投与することをさらに含む、項目 1 に記載の方法。

(項目 3 7)

がんを処置する方法であって、がん細胞成長の 1 種または複数の薬理的阻害剤を、がんの処置を必要としている患者に投与することと、該患者に、項目 1 5 に記載の栄養サプリメントを含む治療食を消費するように指示することとを含む、方法。